

第3章 分野別施策の展開

基本方針① すべての主体の学びと参加・協働による暮らしの変革



子どもから大人まであらゆる世代が学び、対話することで、地域に対する愛着心や環境問題を自分事として捉える環境意識が高まり、自発的に取り組む人や組織が増え、持続可能な地域づくりに関わる活動が広がっていくまちを目指します。

基本施策	目指す方向性
1-1. ライフステージに応じた環境教育の推進	子どもから大人まであらゆるライフステージに応じた情報提供や環境学習が行われています。

1-1-1	○あらゆる世代への環境プログラムの展開 市民団体や事業者と連携し、子どもから大人まであらゆる世代を対象にした環境教育プログラムを展開します。
1-1-2	○子どもたちへの環境教育の充実 自然環境調査により得られた情報を元に、市民、特に次世代を担う子どもたちを対象とした環境教育への活用を図ります。

■関連する主な方針・事業等

◇奈良市環境教育基本方針

担当課：環境政策課

環境問題が深刻・多様化する中で、本市の豊かな歴史的文化遺産や自然環境がもたらしている“奈良らしさ”を将来の世代にまで引き継ぎ、環境負荷の少ない持続可能な社会を実現するためには、社会経済システムや私たち一人ひとりのライフスタイルを根本から見直す必要があります。そのためには、環境問題に関心を持ち、自ら考え、具体的な行動を実践する人を育てる環境教育が重要となることから、平成21年（2009年）3月に「奈良市環境教育基本方針」を策定しました。

本方針では、歴史・文化、自然(生物)、水、大気、廃棄物、食、エネルギー、地球環境等の幅広いテーマを対象として、市民・家庭、地域、学校、市民活動団体、事業者、観光客等、行政等それぞれの主体が自発的に環境教育を推進するための基本的な方向性や取組を示しています。

◇市民環境講座

担当課：環境政策課

NPO法人 奈良ストップ温暖化の会の会員を講師として、“地球にやさしい暮らし講座”というテーマを掲げ、園児・小学生から大人まで広く市民を対象として地域密着型の出前講座を実施しています。令和5年度（2023年度）は放課後子ども教室や自治会等において延べ5回開催し、参加者は延べ109人でした。

◇環境出前講座

担当課：環境政策課

奈良市地球温暖化対策地域協議会の環境教育プロジェクトでは、様々なNPO・事業者等の会員が講師となり、子どもから大人まであらゆる人を対象とした環境出前講座を実施しています。令和5年度（2023年度）は幼稚園、保育園、こども園、小学校、バンビーホーム、児童館及び地域の団体等で延べ34回実施し、参加者は延べ1,168人でした。



◇脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動「デコ活」普及啓発 担当課：環境政策課

「デコ活」とは、2050年ゼロカーボン及び2030年度削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするための「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の愛称であり、二酸化炭素（CO₂）を減らす脱炭素（DE:Decarbonization）と、環境に良いエコ（CO:Eco）を含む「デコ」と活動・生活を意味する「活」を組み合わせた新しい言葉です。奈良市では令和5年（2023年）8月にデコ活宣言を行うとともに、脱炭素につながる情報発信や支援の実施により市民の方や事業者の方を後押ししていきます。



◇おしえてECOキッズ！・あつまれECOキッズ！

担当課：環境政策課

「おしえてECOキッズ！」として、小学3～6年生を対象にエコアイデアコンテストを実施し、エコアイデア・エコ発明部門133作品、おもしろエピソード部門12作品、合計145作品の応募の中から25作品を最優秀・優秀・入選として選考しました。

「あつまれECOキッズ！」として表彰式を開催するとともに啓発コーナー・体験コーナーで多くの子どもたちに楽しくエコを学んでもらう機会とし、約250人が来場しました。



1-1-3	<p>○SDGs 実現に向けた課題解決力の強化 地域について深く学ぶことを通して、教科、領域を横断した知識や技能を融合し、自ら課題を見つけ論理的思考により解決することができる子どもを育成し、SDGs の実現に取り組んでいきます。</p>
-------	---

■関連する主な事業等

◇探究学習

担当課：学校教育課

市立小・中学校の総合「なら」の取組において、地域を題材として、社会・自然・人と関わる活動や様々な体験活動の推進を支援しています。SDGsを意識した取組を一層進めるために、各学校でのSDGsを意識した特色ある取組を、世界遺産学習全国サミットや世界遺産学習リレー講座において、広く周知しています。

また、ならやま小中学校では、授業時数特例校制度を活用して総合の時間を確保し、5～7年生が個人のテーマを設定し、年間を通じて探究学習を行い、学年を越えた情報交換や成果報告を実施する等、協働して課題を解決する学習を充実させました。

また、一条附属中学校では、「探究フロンティア」において「大和野菜」や「琵琶湖」をテーマとした探究学習に奈良教育大学等の外部団体と連携しながら取り組み、学びを深めることができました。11月に開催した研究発表会には、市立学校教員38名が参加し、市立中学校に附属中学校の探究学習の成果を共有することができました。

基本施策	目指す方向性
1-2. 地域愛着心・環境意識の向上	地域に対する愛着心や環境問題を自分事として捉える環境意識が高まり、自発的に取り組む人が増えています。

1-2-1	○環境意識を高める講座の開催 市立小学校3年生を対象とした環境講座「ECO キッズ! ならの子ども」事業など、子どもを対象とした環境教育を実施することにより、次世代を担う子どもたちの環境意識を高め、環境に配慮した暮らしを日常的に実践する人材を育成します。
-------	--

■関連する主な事業等

◇環境講座「ECO キッズ! ならの子ども」

担当課：環境政策課/学校教育課

子どもの視点からライフスタイルを見直し、次世代の省エネルギー、エコライフスタイルを推進する人材を育成することを目的として市立小学校3年生を対象とした環境講座「ECO キッズ! ならの子ども」を実施しています。

環境教育に専門知識を有し、日頃から出前講座を経験している市民団体等を講師として迎え、省エネルギーや地球温暖化防止等の環境に関するカリキュラムを市の共通プログラムとして開発し、講師独自で開発した「食べ物」、「森林」、「エネルギー」、「生き物」をテーマとしたカリキュラムを個別プログラムとして組み合わせ、出前授業を実施しています。

◇「環境の日」及び「環境月間」

担当課：環境政策課

6月5日は環境の日です。これは、1972年（昭和47年）6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。国連では、日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」と定めており、日本では「環境基本法」で「環境の日」と定めています。さらに、6月を「環境月間」とし、全国で様々な行事が行われています。

本市においては、環境にやさしいライフスタイル及び身近な環境配慮行動の実践を呼びかけるため、奈良市役所、西部公民館及びはぐくみセンターでの啓発パネル展示のほか、奈良しみんだよりへの啓発記事の掲載を行っています。

◇「大和川水質改善強化月間」

担当課：保健・環境検査課

大和川の水の汚れの原因の半分以上は家庭から出る生活排水（台所やお風呂等から排出される汚水）です。特に冬は雨が少なくなることで川の水量が減り、また、水温も低下することから川をきれいにする微生物の働きが弱くなるため、水質が悪くなりやすい状態になっています。そこで、毎年2月を「大和川水質改善強化月間」に位置付け、大和川流域において、国、大阪府、奈良県及び流域市町村が連携・協働し、啓発活動を行っています。

奈良市においては、水質改善の意識の向上を図るため、そして生活排水対策を呼びかけるための啓発活動として、奈良市役所、はぐくみセンター及び西部公民館で啓発パネルを展示し、市役所に設置されている広告モニターを用いて啓発を行いました。また、近鉄奈良駅前及びJR奈良駅前で一斉街頭啓発を実施し、啓発チラシや啓発物品を配布して家庭でできる生活排水対策や河川の環境美化に関する実践活動などを呼びかけました。

1-2-2	○持続可能な地域づくりの担い手の創出 SDGs の考え方をもとにワークショップ等を実施することにより、幅広い視点を取り入れた環境教育を推進し、地域愛着心や環境意識の向上を図るとともに、持続可能な地域づくりに向けた担い手の創出に努めます。
1-2-3	○世界遺産等を通じた学習による持続可能な社会の担い手となる人材育成 世界遺産をはじめとする地域の文化財や伝統文化等について、現地及び博物館等で学ぶことを通して、子どもたちの地域に対する誇りや地域を大切に思う心情を育み、持続可能な社会の担い手となる人材を育成します。

■関連する主な事業等

◇世界遺産学習推進事業

担当課：学校教育課

市立小学5年生に副読本「奈良大好き世界遺産学習」を配付し、同5年生に世界遺産学習現地学習を実施しています。また、世界遺産や地域遺産等の文化財や環境等をテーマに、SDGsの意識を高める学習を進めています。令和5年度(2023年度)は教員向け研修「世界遺産学習リレー講座」をオンライン及び現地にて年間8回開催したほか、他市町村の学校の子どもたちと交流を行う「世界遺産学習学校間交流」を実施しました。特に「学校間交流」では、福井県の小学校と奈良市立学校とが東大寺修二会にかかわる交流を行うなど、地域の遺産の魅力や課題等について考える機会となりました。

実施状況としては、すべての市立小学校にて副読本「奈良大好き世界遺産学習」が活用され、世界遺産学習現地学習における児童アンケートでは、92%の肯定的な回答を得ることができました。教員向け研修「世界遺産学習リレー講座」を8回実施し、延べ約140名の教員が参加しSDGsを意識した世界遺産学習について学びを深めることができました。



基本施策	目指す方向性
1-3. 各主体の連携・協働	人や組織がつながり、持続可能な地域づくりに関わる活動が広がっています。

1-3-1	○事業者に対する支援体制の構築 市内事業者の活性化を図り、市全体の経済の活性化や顧客・需要の増加を生み出し、市内での持続的な事業運営ができるように関係団体と連携した支援体制を構築します。
-------	--

■関連する主な事業等

◇事業者及び関係団体に対する各種支援事業等 担当課：産業政策課

市内事業者に対し、奈良商工会議所等と連携し伴走支援等による支援を通じて市内経済の活性化を図ります。また、各種経済団体に対し補助金を交付します。令和5年度(2023年度)は奈良商工会議所、ジェトロ奈良事務所及び学術機関等と連携して、市内事業者の事業継続支援と海外を含む販路拡大等の新たな取組への支援を行いました。

1-3-2	○起業家等への支援による経済の活性化 創業支援施設を拠点とした取組を推進し、起業家や起業マインドを持った人材による新たな事業の創出を支援することで、市内経済の活性化を図ります。
-------	---

■関連する主な事業等

◇BONCHI を拠点とした創業支援事業 担当課：産業政策課

創業支援施設 BONCHI を拠点に、起業を考えている方、新しいことを始めたい方や自分らしいはたらき方・生き方を模索したい方を支援しています。創業支援施設 BONCHI を拠点としたイベントを通して新しい人・コトと出会い、アイデアを誰かに話して磨く、実験的にワークショップを開き、事業・活動を立ち上げるといった、「出会う」「磨く」「試す」「始める」のサイクルを生み出すことで、「ひとりでの、持続可能な地域や社会が生まれる場所。」を目指す取組を実施しています。

1-3-3	○セクターを超えたネットワークの形成 市民・市民団体・事業者・行政等のさまざまな主体が連携し、情報共有や更なる取組につながるようなネットワークを形成することにより、持続可能な地域づくりを推進します。
-------	--

■関連する主な事業等

◇奈良市地球温暖化対策地域協議会（通称：ならエコ・エコの和、NEW） 担当課：環境政策課

奈良市地球温暖化対策地域協議会は、地球温暖化対策の推進に関する法律第40条第1項に基づく組織で、平成20年（2008年）10月26日に設立されました。市民、事業者、行政等が対等な立場で和をもって協議し、パートナーシップにより地球温暖化対策等の活動を推進することで、環境（エコロジー）も経済（エコノミー）も持続可能な社会をめざしています。当協議会では、省エネ・創エネの推進、環境教育の推進、3Rの推進、公共交通機関の利用促進等のプロジェクトが進められています。

(1) エコエコサロン

① WEBセミナー「奈良の未来を考える～エネルギー・リニア・気候変動～」

令和6年（2024年）2月3日（土）に、加藤三郎氏（認定NPO法人環境文明21顧問）による講演を、Zoomミーティングを使ったWEBセミナーにて行いました。

② 「落語と漫画でみる地球温暖化」

令和6年(2024年)3月9日(土)に、奈良公園バスターミナルレクチャーホールにおいて、奈良市出身の桂文鹿さんによる落語、漫画家・大阪芸術大学教授のいわみせいじさんによる漫画と語り及び桂文鹿さん・いわみせいじさん・奈良市地球温暖化対策地域協議会 幹事の許斐喜久子さんによるエコ対談を実施しました。



(2) 「茶話～タイムズ」の発行

エコに関する情報を発信する普及啓発冊子として、「使い捨てプラスチックの削減」をテーマに、情報誌「茶話～タイムズ」を2,000部作成し、市公共施設に設置するとともに、おしえてECOキッズ！作品展示会等において配布しました。



<p>1-3-4</p>	<p>○行政内の部署を横断した統合的アプローチ 庁内のさまざまな部署と連携し、市の施策にSDGsの視点や地域循環共生圏の考え方を取り入れることで、行政課題の統合的解決や地域活性化に取り組みます。</p>
--------------	--